

令和8年度春季号（年4回発行）

息軒だより

第53号

発行 宮崎市安井息軒記念館
〒889-1605
宮崎市清武町加納甲3378-1
TEL 0985-84-0234
FAX 0985-84-2634
e-mail: sokken.yasui@pic.bbiq.jp
https://yasuisokken.jp

2026年は安井息軒先生 没後150年です。



「息軒ふるさとウォーク」ふり返り

令和7年度「息軒ふるさとウォーク」が3月1日に開催されました。コースは安井息軒記念館を出発して明教堂跡、地頭所跡、蓮徳寺墓碑群、チンチン坂、河崎権助の墓、ぎによもん屋敷跡、空襲証言の石垣の順で約5キロの道のりを2時間ほどで歩きました。坂を昇り降りしてもら道りでしたが、皆様快活に歩いておられました。はじめて息軒ウォークに参加されるという方が多く、清武中野・南加納周辺に史跡があることを知ってもらう機会となりました。

今回は予想以上に多くの方にお申し込みいただき、締切前に定員に達してしまいました。そのため、ご参加いただけなかった方には申し訳ありません。たくさんのお申し込み、誠にありがとうございました。



令和7年度冬の企画展が3月29日に終了いたしました。1月24日から55日間の開催となりました。企画展の来館者はのべ3626人と多くの方にご覧いただきました。立ち寄って見ていってくださった方、広報をみて来てくださった方様々いました。どのかたも熱心に展示をごらんになっており、アンケートも多くの方が書いてくださいました。企画展の展示自体は秋の企画展の展示替えまで継続して行っております。今後も是非お立ち寄りください。



記念館春の植生

タンポポ

宮崎市安井息軒記念館敷地の芝生と安井息軒旧宅に、ニホンタンポポ（在来種）が生息しています。普段よく目にするタンポポはセイヨウタンポポ（外来種）であることがほとんどですが、旧宅に生えているタンポポはほとんどニホンタンポポです。ニホンタンポポは生息地が少なく、セイヨウタンポポに比べると開花時期が短く種の数が少ない花です。

そんなニホンタンポポとセイヨウタンポポの見分け方は総苞片と呼ばれる部分です。セイヨウタンポポの総苞片は広がっているのに対して、ニホンタンポポは総苞片が広がっていません。セイヨウタンポポに比べ控えめな花ですが、ニホンタンポポを探してみたい方はぜひご覧ください。



梅の木

今年も梅の実がなり始めました。早いものは2月の終わり頃に実が膨らみ始めます。3月頃になると、どの梅の木も実がはっきりと確認できるようになります。4月頃には実が大きくなり始め、青梅として収穫しても良いぐらいになります。早いものは青梅から黄梅になっているものもあります。5月頃になると実が地面に落ち始めるのです。

昨年は豊作で、地面に落ちている梅を毎日掃除しても追いつかないほどでした。今年は、梅の実のなり具合が木によって大きく差が出ました。毎年梅ちぎりに幼稚園が参加するのですが、昨年ほど多く収穫とはならないかも知れません。

花の時期のとは異なり、青々とした葉と梅の実がなる様子をぜひご覧ください。



令和7年度宮崎市安井息軒記念館研究報告書完成



令和7年度の宮崎市安井息軒記念館の研究報告書が完成しました。収録内容は安井息軒著『靖海私議』と『靖寇愚案』の訳考です。

いずれも広島大学文学部准教授青山大介氏の寄稿です。記念館内の閲覧室書架に収めてあります。令和5年度と令和6年度の研究報告書もありますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

不定期で連載している安井息軒の紀行文『読書余適』の3回目となります。前回は7月8日に日光東照宮を訪れ、参拝する場面を紹介しました。今回は『読書余適』に出てくる丹羽伯弘（にわはっこう）という人物をとりあげます。

7月8日、東照宮の参拝を終えた息軒たちは境内で丹羽伯弘（にわはっこう）と偶然出会います。丹羽伯弘は丹羽思亭ともいい、新発田（新潟県新発田市）の藩士です。江戸に出て松崎慊堂の門弟となり、『読書余適』の旅をする17年前、伯弘が25歳のときに息軒と知り合います。朱子学派の新発田藩の藩校では教えることができず、私塾「学半楼」を開き新発田藩の教育の礎を築いた人物です。

伯弘は新潟にある新発田藩に帰る途中でした。息軒は今回の旅に出る前に、師松崎慊堂に旅に出る挨拶に行きました。その際に伯弘もその場に居合わせており、自分も息軒と同じ7月2日に江戸を発って新発田藩に帰ると伝えていたのです。旅の予定の中で息軒は消息が不明になっていた飢肥藩士の長友子由という人物を探すため、伯弘とは異なるルートで行くことが決まっていた。息軒は同行できないことが分かりがっかりしていましたが、図らずも東照宮でばったりと出会ったのです。伯弘はその後、中禅寺（世界遺産「日光山輪王寺」の別院）を訪れる予定でした。息軒たちは東照宮の前にすでに観光をしていたので、明日以降に同行することを約束し、その場は別れました。夕飯を食べた後、伯弘と落ち合うために来た路を引き返す形で日光市の今市という所の宿に泊まります。

翌9日、伯弘を待っていましたが来なかったため、書き置きをして先に出発します。日光連山の男体山と女体山を眺め、大桑駅（日光市大桑町）で休憩し、高德津（日光市高德）を渡っていきます。どんどんと北上して行き、藤原駅（日光市鬼怒川温泉藤原）で食事をします。日が暮れて、高原駅（日光市高原）に到着し、夜に丹羽伯弘とようやく合流しました。

10日、一行は高原駅を出て街道を北上していきます。横川駅（日光市横川）を過ぎて、山王嶺（山王峠、現在の栃木県と福島県の境界にある）を越えていきます。遂に奥州（東北地方）に入ります。撥塩（福島県南会津羽塩）を過ぎ、日が暮れてきたので糸沢駅（南会津郡南会津町糸沢）で宿に入ります。その宿での息軒と伯弘のやり取りの場面を抜粋します。

糸沢に宿す。既に飯し、談経史に及ぶ。伯弘曰く、『鶏即ち鳴くに匪ず、蒼蠅の聲なり』日いでて起つは蠅の性なり。鶏未だ鳴かずして先にその聲有るは、是何の理ぞ」と。予曰く、「古人も亦之を疑う者あり。然れども蠅は火を見て起きつ。起てば即ち聲を為す。蓋し亦常なるのみ」と。伯弘笑ひて応ぜず。時に髪を理す。店人偶座して燭を乗る。蠅火を見て至るもの三。嚚然として聲有り。乃ち服す。

夜、息軒と伯弘が儒教の経典や史書の談義に興じます。伯弘が儒教の経典の『詩経』の中の、『鶏即ち鳴くに匪ず、蒼蠅の聲なり（鶏が鳴いたのではない、ハエの飛ぶ音だ）』について、「日が出てから起きるのがハエの習性であり、鶏が鳴いていないのに先にハエの音がするのはどういう理屈だ」と言います。息軒は「昔の人も疑問に思っただろう。しかしハエは火を見れば起きて飛ぶ、通常のことだ」と答えます。それに対して伯弘は笑って同意をしません。ちょうどその時、髪をとかしていた店の人間が燭台を手に取ると、火を見てハエが3匹飛んでいく大きな羽音がしました。伯弘は降参しました。

話している内容は儒教の経典でありながら、とてもユーモラスな場面です。息軒たち儒学者は時には真剣に時には冗談を言いながら仲間と語り合っていたということがわかります。

11日、糸沢駅を出発します。伯弘はその日の内に大内嶺（大内峠、会津若松市と南会津郡下郷町の境にある）を越えたところまで行かねば帰藩の期日に間に合わなくなるが、息軒は自分の脚力では伯弘ついていくのは難しいと判断し、別れることとなりました。

旅から4年後、連絡が途絶えたことを案じる息軒にもとに、丹羽伯弘の墓碑銘を依頼する手紙が届き伯弘の死を知ることとなります。享年52歳でした。

講座・イベント情報

ゴールデンウィーク企画 「安井息軒クイズラリー」

開催期間5月2日（土）～5月6日（水）

めざせ！息軒博士、クイズラリーに参加して息軒博士号ゲットしよう！

参加無料、参加された方には景品があります。



安井息軒記念館講座

第1回 6月20日（土） 10：00～11：45

「安井息軒入門」 講師：宮崎市安井息軒記念館 館長 伊東但

場所：宮崎市安井息軒記念館研修室

事前申込必要 参加無料 定員40名



「国指定史跡安井息軒旧宅」清掃ボランティア募集



安井息軒旧宅の清掃ボランティアを募集しています。文化財を後世に残すために国指定史跡の清掃に参加してみませんか。

時間は8：30～10：00。開催日は5月23日（土）、6月27日（土）、7月25日（土）、8月22日（土）、9月19日（土）、10月24日（土）、12月5日（土）です。

参加を希望の方は事前にご連絡ください。申込方法はHPのお問い合わせフォームへ記入または電話でお申し込みください。天候により中止または日程変更をする場合があります。記念館のHPなどをご確認ください。

講座・イベント・団体見学のお申し込み、お問い合わせは窓口および電話・FAX・メールにて受け付けております。また、出前講座のお申し込みも受け付けております。

講座・イベントは、日程および内容が変更になる場合がございますのでホームページで最新情報をお知らせしております。ご確認くださいませ。



HP



Instagram



Facebook